



みつくうら



《 輸入大豆 》

17/18年 世界及び米国大豆生産予測・需給予測

米国農務省が11月9日発表した、17/18年度の世界大豆生産・需給予測によれば、生産量は前回比0.3%増の3億4,889万トンとなりました。米国では前回から減産となりましたが、ブラジルで増産となっています。

前回から需要が増加しているものの、期初在庫の上方修正と生産高が増加したことにより、期末在庫は前回比1.9%増の9,790万トンに上方修正されています。

また、同日発表された17/18年度の米国大豆生産・需給予測によると、収穫面積・単収は据え置かれたものの、生産量は下方修正されました。また、総需要量は据え置かれたことで、期末在庫は前回比1.8%減の1,157万トンに下方修正されました。

17/18年産 世界大豆生産・需給予測

生産量	3億4,889万t	(対前年比	0.7%減)
消費量	3億4,496万t	(対前年比	4.5%増)
期末在庫量	9,790万t	(対前年比	1.7%増)
期末在庫率	28.4%	(対前年度差	0.8ポイント減)

17/18年産 米国大豆生産・需給予測

生産量	1億2,044万t	(対前年比	3.0%増)
消費量	5,651万t	(対前年比	1.8%増)
輸出货量	6,124万t	(対前年比	3.5%増)
期末在庫量	1,157万t	(対前年比	41.1%増)
期末在庫率	9.8%	(対前年度差	2.7ポイント増)



○11月12日現在の米国大豆収穫率は93%、一部地域で遅れも

米農務省が11月13日発表した、11月12日現在の米国大豆収穫率は主要18州平均で93%（前週90%、前年96%、平年95%）と前年を3ポイント、平年を2ポイント遅れて推移しています。収穫もいよいよ終盤ですが、ケンタッキー州など一部地域で平年を10ポイント以上下回っているなど一部地域で遅れがでているようです。

○17年産カナダ大豆生産予測は32%増の832万トン、期末在庫も増加

カナダ農務・農産食品省がこのほどまとめた、同国の穀物・油糧種子レポートによれば、17年産大豆の生産量は平年単収を当てはめた場合、前年比27%増の830万トンになると予測しています。作付面積は32%の増加見通しとなっており、西部での増加が予測されています。

供給量の増加に伴って、輸入量は25万トンに減少、国内需要も減少見通しとなっており、期末在庫は49万トンと前年を上回る予測となっています。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>



《 国産大豆 》

○J A全農が29年産集荷見込みを報告、19万トン台から下方修正も

関東大豆卸商組合連合会は16日、最近の動向について意見交換を行いました。今回の会議にはJ A全農の担当者も出席し、29年産大豆の集荷計画などを報告しました。

29年産大豆について、10月末時点の集荷見込みは近日発表されるとした上で、当初計画では20万トンを見込んでいたものの、東日本の日照不足や長雨、中京地区での台風被害により19万トン程度になるとの見方を示しました。また、11月以降の収穫状況や選別状況によってはさらなる下方修正もあり得るとしました。

ただ3期連続で18万トンを超える集荷が見込まれていることから、国産大豆の供給は安定しているとの認識も示しており、価格についても需給バランスは取れており、極端な上昇は考えにくいとの見解を示しました。また、29年産から試験導入した播種前入札は30年産から本格導入され、取り扱い数量も増加すると付け加えました。

《 トピックス 》

○常温保存の無菌充てん豆腐の健康評価を了承-食品安全委員会

食品安全委員会の専門調査会は10月30日、常温保存の無菌充てん豆腐の食品健康影響評価について審議し、十分な衛生管理を前提とした上で、冷蔵保存しなくても人への健康影響を無視できると結論付け、了承しました。

無菌充てん豆腐が常温で長期間保存、流通することを想定するとボツリヌス菌などが最終製品に残った場合、人に健康被害を引き起こすリスクがあるとしました。

しかし十分に衛生管理されていることを前提に、厚労省が条件を示す、殺菌・除菌の製造工程により対象病原体は死滅したと判断できることから、最終製品には残存しないと考えられ、発育し得る微生物が陰性であるとする成分規格は有効だとしています。

そのため現在の包装豆腐の規格基準に基づき冷蔵で保存されている無菌充てん豆腐について、冷蔵保存から常温保存に変更した場合のリスク差があるとは考えられないとし、人への健康影響は無視できる程度と評価しました。

○大豆の収量3倍に、札幌の新農業研が新技術

11月7日の日本経済新聞によると、育苗技術を開発するベンチャーの新農業研究所（札幌市）は、大豆の収穫量を約3倍に増やす技術を開発しました。北海道大学と共同で実証実験を実施し、発光ダイオード（LED）の光で根を乾燥させ、植物に適度なストレスを与えることで発育を促す手法を発明しました。

今後は苗と収穫した大豆を販売するほか、健康食品としての加工を目指す方針。更には東南アジアへの技術供与もしていく考えとのこと。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>